



東陽病院 院長 伊藤 文憲

健康への

メッセージ

シリーズ (135)

心筋梗塞

光町のみなさんこんにちは。今回は心筋梗塞のお話です。前回に述べた狭心症が進行すると心筋梗塞になります。心筋梗塞は心臓の筋肉を栄養する冠動脈が完全に詰まるか長期にわたって内腔が狭くなることにより心筋細胞が死滅することにより生じます。

心筋細胞の死滅により心臓の機能が低下します。閉塞の部位により異なりますが広範囲に心筋細胞が脱落すると高度の心機能障害が起こります。各種の不整脈により心機能が低下し、死に至る場合もあります。

前回にも述べたように狭心症の発作からすぐに心筋梗塞になることはありません。梗塞の発作を予防するための生活習慣の改善やお薬があります。これにより梗塞の予防が可能となっています。しかし、徐々に進行する病気で、高齢化の進行により脳梗塞や心筋梗塞などの血管の動脈硬化に関連する病気が増加しています。死亡率でも悪性腫瘍と脳血管障害や心臓血管障害による死亡が1・2位を競っています。

心筋梗塞の発作が起こる前に狭心症の発作が頻繁に起こります。その段階になると薬物療法の限界です。欧米では治療として全身麻酔による心臓血管のバイパス術が行われています。

したが、日本では手術に対する不安感などから薬物療法が専ら行われバイパス術の選択は少数でした。しかし最近では重症の狭心症に対して、

局所麻酔のみにて手足の動脈からカテーテルを挿入し、冠動脈の中に誘導し、器具を用いて血管の狭窄を改善する治療が行われており、その有用性が確認されています。さらに各種の機器の進歩により高度の閉塞例に対しても治療が可能となっています。

心筋梗塞は狭心症の症状である短期の胸痛発作ではなく15分以上持続する胸痛であり、冠血管拡張用の舌下錠の使用によっても症状が改善しません。背中の痛みや肩の痛みを伴う場合もあります。このような症状が起こった場合には昼夜を問わず病院を受診することが大切です。

心筋梗塞の診断は臨床症状に加えて心電図や血液検査により行われます。心筋梗塞と診断された場合には造影剤を用いた冠動脈の検査が必要であり、至急その検査が可能な医療施設に紹介します。造影検査により、心臓の周囲にある3本の血管の狭窄状態を診断し、狭窄または閉塞した部位が判明したらその部位に細いカテーテルを通過させて拡張を図ります。再拡張が出来る」と血流が再開されて心筋梗塞による細胞の死滅が防がれます。3本の冠動脈の全てにこの治療が行われます。このカテーテル治療が成功すると症状の改善や進行が阻止できます。狭窄した部位は再発の危険性もありますが最近ではステントという器具の使用により長期の開存が可能な方法も開発されています。

お知らせ

※相談窓口開催日 15日(火)午前9時～正午
※救急当番日 21日(月)午前8時30分～午後6時
医師が2名が待機・来院の際はお電話を☎0413335

春の名作鑑賞会

『マトリックス リローデッド』

(日本語吹替版)

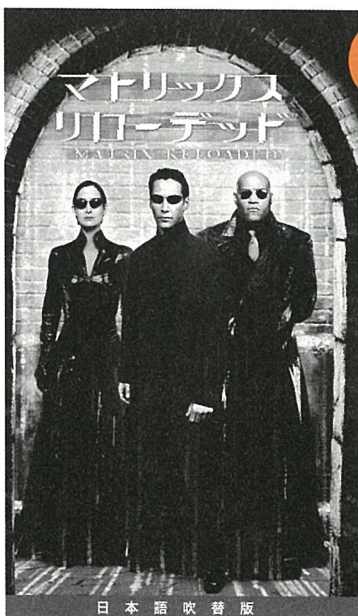
日時 3月20日(日)
午前10時・午後2時の
2回上映
場所 図書館2階ハイビジョンホール
定員 各回120名
入場 整理券(無料)を3月5日(土)から図書館カウンターで配布します。

=町立図書館=
☎043311

返し忘れている本はありませんか?

図書館から借りて、返し忘れている本がありましたら、お早めにお返してください。

また、自宅で不要になった本は寄贈も受け付けていますので、図書館へご相談ください。



休館日

3月7日(月)、14日(月)、21日(月)、28日(月)、4月4日(月)、5日(火)